

2016年 仮説実験授業研究会夏の大会（伊香保大会）

海外仮説分科会報告（7月28日 午後の分科会）

文責 宮本なつ江

レポート数6本 参加人数 12名

- ・「途上国も先進国も子どもは子ども」 福嶋祐子
福嶋祐子さんがJAICAのボランティア活動でバングラデシュへ行かれ、現地の学校での4本の授業記録と評価・感想のレポートです。授業は、《空気と水》(2014.11.25) 《もしも原子が見えたなら》(2015.5.16) 《自由電子が見えたなら》(2015.8.1 福嶋昭雄さんと) 《ものとその重さ》(2016.3.20・21 ショブノン先生と) です。「いえーい！」と日本の子どもたちと同じ反応が返ってきたときの喜びがこの36ページのレポートを書く原動力になったそうです。また、きっかけが「7月1日バングラデシュ事件」ということで、今の世界情勢を考えさせられるものとも言えるでしょう。

- ・「Whoosh!」（「揚力」の英語版スライド版） 武田芳紀
オリジナルは沖縄の與那嶺さんで、それを基に広島
の末丸さんがスライド版を作られました。その英語
版の発表・検討はその日のナイターでした。
- ・「Whoosh スライド版の作成まで」・「Whoosh の実
践報告」（ルデレ英会話スクールでのハローウィン
パーティーにて）・「科ボセン便り」（岡山理科大学
科学ボランティアセンター 2016.7.16 発行）の3
本は、楽しい授業の英語版を作成するにあたっての
ヒントがいっぱいです。
- ・「科学実験ツアーの取り組みについて」 宮本なつ江
今までの7回にわたる「科学実験ツアー」（8月にオ
ーストラリアの現地校で楽しい授業をするツアー）
の取り組みの成果と課題をまとめたレポートです。

今の世界情勢の中で、仮説実験授業・楽しい授業を
どうとらえるか？を考えさせられた分科会でした。